

# ENOKI

えのき

4f

合唱 ダンス 和太鼓  
登録団体のダンス・舞踊  
ビンゴゲーム

3f

昔の遊び 手作り教室  
おもちゃ病院 健康チェック  
ゴミ分別エコクイズ  
アクセサリーの販売

第11回 榎町

## 地域センター

2f

指圧 漱石山房  
お茶席 明るい選挙  
住宅の耐震化 交通安全

## まつり

1f

包丁研ぎ 子ども木工教室  
起震車体験 防災グッズ展示  
福島県伊達市物産販売  
パン・鉢植え・野菜の販売

日時 10月28日(日)

午前10時～午後4時

会場 榎町地域センター

新宿区早稲田町85番地

- 主催 榎町地域センター管理運営委員会
- 協力 榎地区協議会
- 問合せ Tel 3202-8585 (榎町地域センター事務局)

★自転車・車での来場はご遠慮ください

★1階 伊達市物産・パン・鉢植え・野菜の販売は  
午前10時30分に開始します



BI

模擬店 パネル展示  
クッキー等の販売  
ゲームコーナー  
東日本大震災被災地支援  
福島の小学校に紙を届けよう!

町連一斉防災訓練

黄色旗を掲げよう！



来る11月11日(日)、27町会による初の試みとして、一斉防災訓練を行います。主な内容は、防災黄色旗(家の中にいる家族の無事を知らせる旗)を町会員各世帯が玄関等に掲げる安否確認訓練と、管内7避難所と出張所との無線通信訓練です。

防災黄色旗による安否確認は、先進地域で地域住民の安否確認に大きな効果を上げています。今回、榎町地区でも町会単位で迅速に安否を確認できるよう訓練を行います。

無線通信訓練では、東京を震源とする大地震が発生したという想定のもと、防災行政無線を使って町会役員による情報伝達の訓練を行います。

4月に都が公表した東京湾北部地震の被害想定では23区内の7割が震度6強以上、新宿区内の建物の全壊棟数は約3千棟と推計されています。震災時に迅速な情報収集を行い、適切な行動が取れるよう、安否確認訓練への皆さんのご協力をお願いいたします。



早稲田地区青少年育成委員会

第4回 子ども防災キャンプ

7月15日(日)、牛込消防署・早稲田出張所、鶴巻南公園、早大通り、榎町地域センターにて「第4回 子ども防災キャンプ」を開催しました。

参加した子どもたちが、3・11の大震災以降、防災に対して大きな関心を持っていることが伺われる訓練でした。

訓練に参加した子どもたちや保護者から以下の感想がありました。

- ・消防服を着用してみたら、とても重たかった。消防士さんたちは体力がある。
- ・ポンプ式浄水器で水をろ過する方法を学ぶことができて、災害の時に役立つと思った。
- ・水消火器を一人で扱うことができた。
- ・心臓マッサージ(AED)を使う訓練ができてよかった。
- ・心臓マッサージをするときは「もしもしカメよ」の歌のリズムに合わせることを覚えた。
- ・AEDを扱う訓練では、人工呼吸をしないで心臓マッサージだけでも良いと分かった。(保護者)
- ・起震車の体験ができてよかった。震度7の上級震度でも恐いというよりも楽しめた。
- ・昼食に食べたアルファ米の五目ごはんはおいしくて、簡単に作ることができると分かった。



▶牛込二中えんにち 流しソーメン  
◀防災キャンプ 心臓マッサージの訓練



8月26日(日)、牛込第二中学校で地域交流事業、第7回「牛込二中えんにち」が中学生の企画により開催されました。猛暑にもかかわらず、240名と、大勢の皆さんが集いました。

牛込二中 えんにち



ゲーム、手作り、食べ物縁日等がありました。お気に入りのゲームに何度もチャレンジしたり、獲得した景品を、自分で絵付けをした手提げ袋に得意気に入れる姿など、とても楽しそうでした。

気温30度を越える暑さに、かき氷は大盛況。竹の筒を涼しげに流れる「流しソーメン」はゲーム感覚で楽しく食べられ、夏の冷たいご馳走に皆さん大満足の様子でした。

東北被災地支援として、牛込地区校長会・PTAが、福島県の被災地の学校へ用紙を送っています。その運搬費用を補うため、寄付を募りました。募金は、運搬費用の一部として校長会に届けられました。

中学生、地域の皆さんの協力で、夏休み最後の日曜日は楽しく、無事終了しました。

学童クラブ・児童館  
子どもひろばを訪ねて

5

## 早稲田小学校 子どもひろば

### ●利用できる時間と曜日

基本的には、月曜日から金曜日日の授業終了時から午後5時迄です。祝日・土・日の学校がお休みの日はありませんが、振り替え休日、長期休暇の日は午前10時から利用できます。冬場は暗くなるのが早いので、午後4時30分迄です。(利用時間は、学校によって違います)

### ●将棋教室・お話の会

月に一度、将棋連盟の石川七段が将棋の指導に来てくれます。子どもたちも楽しみにしていて、毎回20人以上が参加しています。

また、鶴巻小学校の子どもひろばにも来ている、地域のボランティアグループの「綺羅の会」の皆さんが、「お話の会」として、本の読み聞かせと紙芝居をしてきています。

### ●上級生が下級生の面倒をみる

早稲田小学校子どもひろばの子どもたちはとても仲良く、異年齢の子どもたちが一緒になって遊んでいます。高学年の子どもが低学年の子どもの面倒をみてお世話をしています。特に6年の男子は下級生に好かれています。

### ●スタッフは6人

管理責任者1名、遊び支援者4名、学びの支援者1名、見守り担当者1名の計6名で子どもたちの見守りと遊び学びのお手伝いをしています。宿題をすませてから遊ぶ子どもも多いようです。

### ●連絡会を開き保護者の

#### ニーズに合わせる努力

学校子どもひろば事業は、新宿区子ども家庭部が所管し、レガスに運営を委託しています。保護者のニーズに合わせるよう管理者以下、ひろばの支援者も一生懸命努力しています。年に三回、学校、保護者、管理責任者の三者が参加し、連絡会を開催しています。

登録人数 計 248 名	1年生	61名	1年生	47名
	2年生	61名	2年生	21名
	3年生	32名	3年生	26名



石川七段の指導のもと、子どもたちの将棋の腕は格段と上がっている。

## 江戸川小学校

### 地域の輪

## 納涼盆踊り大会

今年も夏の風物詩、江戸川小学校「第25回納涼盆踊り大会」が8月24、25日に開催されました。

今回初めて実行委員をすることとなり、大変に驚いたことがあります。一つ目は、学校とPTA、同窓会、そして各町会の連携の良さです。櫓の設営、提灯の取付け、太鼓の音頭、盆踊りの輪、カキ氷等の催し物、どれも地域力を感じました。二つ目は、準備を4月から開始していることです。入学式に来賓の方へお知らせを配布、5月に各町会、同窓会、太鼓同好会、さくら会等の皆さんと学校・PTAで打合せ、盆踊り実行委員会を立ち上げます。提灯更新や子ども提灯作り、ポスターの作成と配布、催物に必要な物品発注等を8月中旬までに終えます。直前には櫓の設営、提灯付け、踊りの練習会など、この4ヶ月間ほとんど頭の中は盆踊り一色でした。

当日は無事故で子どもたちと地域の皆さんに楽しんでいただきたい一心で参加しました。様々な局面でご苦労いただきましたみなさんに感謝一杯です。今年は二日間で、来場者数は延べ910人でした。地域で子どもを育て、温かく見守る環境があればこそできる行事だと実感しました。



## 牛込第二中学校

### ●学芸発表会

10月27日(土)

午前 合唱

午後 学習発表

### ●バザー

11月10日(土)

午前11時～午後1時30分

日用雑貨・手作り品の販売他

主催 牛込第二中学校PTA

\*詳細については、ポスター等でお知らせします。

技の伝承 ①  
**活字のことなら  
 総ておまかせ**  
 新宿区地域文化財  
**佐々木活字店**



名刺、ハガキの印刷や書本の作成などの注文、相談に豊富な知識をもつ職人さんが親切に応えてくれるお店です。

この度、新宿区の地域文化財に認定された佐々木活字店さんをご紹介します。佐々木活字店さんは、日新印刷(大日本印刷の前身) 鑄造部の責任者をしてきた佐々木巳之八氏が、大正5年に独立して設立した佐々木活版製造所を前身とする百年の歴史を持つ事業所です。

印刷業界では、昭和五十年頃よりワープロによるデジタル化が進みはじめ、活版印刷が減少し続けた現在では、活字店は都内でも5軒程度と云われています。活字の鑄造、文選、植字、印刷の総ての工程を処理できる活版印刷の技術を持つ所は少なく、佐々木活字店さんは、日本の出版文化を頑に守り続ける貴重な存在といえます。



活字を拾う文撰の作業をする、三代目社長の佐々木精一さん

印刷物を作成するには、大きく分けて二通りの方法があります。それは活字印刷(活版印刷)と平版印刷(オフセット印刷)です。ここで活版印刷の工程について簡単に説明しておきましょう。

活字を製造するには、文字の形が彫り込まれた母型が必要です。母型を活字鑄造機に取り付け、活字を作ります。ということとは、文字の大きさの種類と書体の種類の数だけの母型を揃えなければなりません。

常用漢字だけでも一八五〇字、一般の組版には六〇〇〇字以上が必要と言われ、日本で使われている漢字は一二〇〇〇字とも言われています。これを文字の大きさの種類、書体の違いと全種類を揃えると膨大な数になります。



活字を鑄造する息子さん

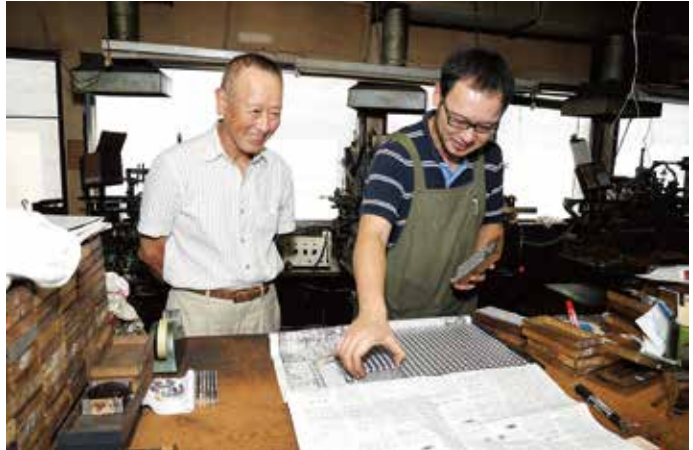
鑄造された活字は細かく分けられた棚に決められた順に(仮名なら「いろは」順)に並べられます。この棚が並んでいる場所を馬場といいます。

ここから組版に入ります。この棚から原稿通りに活字を拾って行きます。この作業を「文選」といいます。次ぎは拾った活字を行間を取りながら印刷物の体裁どなりに並べます。この作業を「植字」といいます。組み上がった活字を印刷機に掛け、インキを付けて紙に移した物が印刷物ということ。書籍の場合は紙型どり、鉛版流しという工程があった後、印刷という工程になります。

ひとくちに印刷物といっても、名刺、お知らせのチラシ、書籍、雑誌、新聞と多種多様な物があります。印刷物とは要するに意思伝達のため紙の上に表した物です。名刺にしても、ワープロで入力し、プリンターで出力するのが一般的になってきましたが、活字印刷で金箔で箔押しをしたもの、会社のマークを空押しした名刺などは、信用度も高まり、もったい心に暖まる印象を与えます。また、活版印刷の書籍を読むと、目にほのぼのとした優しさを残し、読み疲れせず、読書の深い味わいを堪能できます。



佐々木活字店  
 新宿区榎町75番地  
 TEL(3260)2471



装飾デザインの材料に使う「と」の活字をたくさん鑄造する

佐々木活字店さんでは、近年、改めて活字印刷の良さを求めて来る方々の要望に応え、名刺や封筒、案内状、詩集などの印刷物を作っています。

昔は印刷会社が組版設備を持ち、文選、植字の職人さんたちもいましたが、ほとんどの印刷物がオフセット印刷になってしまいました。連続と続いてきた地場産業としての日本出版文化の貴重な技術を佐々木活字店さんに保持し続けてほしいと思います。

# おすすめ 秋の散歩道

## 江戸川公園・目白台

穏やかな秋日和に紅葉豊かな江戸川公園と芭蕉庵、芸術の秋が満喫できる目白台の美術館への散策をお薦めいたします。江戸川橋から大滝橋間の神田川左岸に沿った細長い公園が江戸川公園です。江戸川橋の公園入口から散策を始めま



▲男爵坂谷芳郎書による石柱



▲関口芭蕉庵の門



芭蕉句碑  
古池や  
蛙飛びこむ  
水のをと  
芭蕉翁二百年祭に  
これを建つ  
文字は眞筆  
昭和四十八年（一九七三）

▲上記のように読める



▲目白台の自然を巧みに利用した庭園で四季折々が楽しめる



▲永青文庫の入口  
一般 800円 シニア 600円



▲講談社野間記念館

入館料 500円  
10月21日まで  
「講談社の絵本原画展」  
10月27日～12月16日  
「横山大観と再興院展の仲間たち」



▲東京カテドラル  
マリア大聖堂

鐘楼の高さと聖堂の大きさは一見の要あり

す。川沿いの道を少し歩いたら、公園内の小高い丘に続く階段を上ってみましょう。この階段は段差も低く、一段が長いのでお年寄りや子どもも楽に登ることが出来ます。階段の周りには樹木が多く、左右の視界も遮られますから、ちょっとした登山気分を味わえます。やがて、階段沿いに丘を降りて行くと児童遊園広場にきます。ブランコ、すべり台、お砂場のある広場で、いつでも親子連れが楽しく遊んでいます。広場の先の、川沿いの道を進みます。道の右側は広大な敷地を誇る椿山荘です。途中、趣のある冠木門があり、椿山荘の庭園を垣間見ることが出来ます。

さらに進むと関口芭蕉庵があります。芭蕉が藤堂家の侍であった頃、幕府から神田川の修復を命じられ、四年間に亘り此の地に住んで、工事の現場監督のように

なことをやっていたと言われています。門の中は江戸時代の庭園になっていて、蛙が飛び込む水の音が聞えてきそうなお池があり、句碑が立っています。庭を巡っていると幽玄の中に佇んでいるようです。

芭蕉庵と水神社との間に坂があります。急な坂で一気になると胸を突かれたように苦しくなることから胸突（むなつき）坂と呼ばれています。

さらに川沿いの道を歩き、新江戸川公園に向かいます。

この一帯は肥後熊本五万石の大名細川家の下屋敷で、新江戸川公園は細川家の庭園でした。新江戸川公園を上ると、永青文庫の敷地に入ることが出来ますが、正門は胸突坂上がった左にあります。永青文庫は南北朝時代から現在に至る細川家二五代の間に蒐集された細川家の

歴史資料や文化財、そして二四代護立氏が発見した近代日本画、中国の考古学陶磁器などに以って昭和25年に設立されました。昭和47年に登録博物館となり、一般に展示公開されています。

永青文庫と芭蕉庵の間の道を行き、目白通りになると、講談社野間記念館があります。記念館では二ヶ月間隔くらいで美術品の展示をしています。

目白通りを渡ると、東京カテドラル聖マリア大聖堂があります。空にそびえる鐘楼の高さは見上げるばかりで、聖堂の大きさもかくやと思えばかりです。

椿山荘の前の坂を江戸川橋方面へ下りてきます。目白坂を下りるよりも、坂の途中に寺等もあり静かな道です。この坂を下りきった所が江戸川公園の入口で、散策の出発点に戻ります。

## 戦災者供養観音と

### 喜久井町観音

夏目坂の坂上左側に、早稲田大学喜久井町キャンパスがあります。その校内の一隅に高さ50センチメートルほどの青銅製観音様が安置されています。訪れる人が思わず手を合わせたくなるような佇まいをもつ古色蒼然とした観音様です。

先の大戦では、昭和19年頃からの戦局は日本にとって厳しくなりつつあり、東京も連合軍による大規模な空襲が予想されました。このため、都民は我が身や財産を守るため、地方へ疎開したり、自宅の庭や道路に防空壕をつくり備えることになりました。

喜久井町キャンパスは高台にあったので、その地下に大規模な横穴式防空壕を作ることになりました。出入り口が夏目坂側と早稲田通り側の二か所にある、L字型の防空壕でした。入り口付近の民家は強制疎開で取り壊され、防空壕建設のために多くの周辺住民が駆り出されました。つるはしとスコップで横穴を掘り進み、土砂はモッコと天秤棒で担ぎ出し、民家が取り壊された空き地に積み上げました。入り口を二か所に設置し、L字型にしたのは、片側が火災になった時、反対側の出入り口から避難できるような構造にするためと説明されました。

そして、運命の日、東京の最後の空襲となった昭和20年5月25日を迎えました。この空襲により榎町地区を含む山の手一帯は一晩で灰燼となってしまいました。この時、防空壕周辺の住民は我を争って防空壕に避難しました。入りきれない多くの人は、早稲田大学の本部キャンパスや、3月10日に焼失した目白台の方へ避難し、助かった人も多くいました。5月25日の空襲の規模が大きかったため、防空壕の出入り口両側が同時に火災となり、ここに避難した人は出るに連れられなくなり、煙により300余名の方が亡くなられました。

早稲田大学は昭和30年5月25日、戦災十周年を迎えるにあたり、300余名の方々の霊を慰めるため、防空壕の上の位置に戦災者供養観音を建立し、周辺住民とともに法要を行いました。以後毎年5月25日に慰霊祭を挙行しています。

この防空壕での犠牲者をはじめ、喜久井町の町民の中に多くの戦災犠牲者を出してしまいました。そこで、町会の有志と感通寺住職が中心となり、昭和52年5月25日、感通寺境内に観音様を建立し、喜久井町観音と名付けました。現在は感通寺境内の小高い丘の上に鎮座しています。前記戦災者供養観音の前での法要を行ったあと、続いて感通寺でも法要を行い、大勢の周辺住民が参加しています。

● 日蓮宗 感通寺

新宿区 喜久井町39

● 早稲田大学

喜久井町キャンパス 新宿区 喜久井町17



写真左 喜久井町観音  
写真右 戦災者供養観音



写真中 感通寺山門



第20回

## 地区内小学校対抗 ドッジボール大会



牛込仲之小学校、江戸川小学校、鶴巻小学校、早稲田小学校、榎地区にお住まいの小学生の皆さん、「ドッジボール」の試合に出場する選手を募集しています。優勝をめざし、がんばってみませんか。

ご家族、地域の皆さん、会場での応援をよろしく願います。

● 日時：11月18日(日)

午前9時～12時

雨天時は体育館で実施

● 会場：早稲田小学校

体育館(低学年)

校庭(高学年)

● 出場申込み

\* 10月中旬に学校から配布される申込み書に必要事項を記入して、11月8日(木)までにお申し込みください。

\* 右記の4小学校以外の学校に通い、出場を希望する児童は、学校名、学年、氏名、住所、連絡先、希望チームを記載の上、左記のFAX番号へお申込みください。

Fax (3269) 3090 浦野

● 主催：早稲田地区

青少年育成委員会

● 協力：スポーツ推進委員

榎町特別出張所

## 榎ふれあいデー

第一日曜日 午後1時～  
早大通りにて実施(雨天中止)  
誰でも自由に参加してください!

● 11月4日(日)

楽しい手作りおもちゃ  
輪投げ大会 昔あそび

● 12月2日(日)

小さなクリスマスツリーを作ろう!  
昔遊び 輪投げ

● 平成25年1月6日(日)

太鼓にお囃し、お正月は獅子舞!  
家族みんなで来てください!

主催 榎地区協議会 地域ふれあい分科会  
共催 榎町子ども家庭支援センター  
協力 早稲田永楽会

## スポーツ交流

ユニカール 輪投げ

● 日時 ① 11月4日(日)

② 12月2日(日)

③ 平成25年1月6日(日)

①～③ 午前10時～12時

● 会場 榎町地域センター  
4階 多目的ホール

● 申込み・参加費は必要ありません

● 問合せ 黒川孔晴

Tel(3268)1777

● 主催 榎町子ども家庭支援センター

## コミュニティ・スポーツ 榎地区大会のお知らせ

● 日時：11月25日(日)

午前9時～4時頃

● 会場：鶴巻小学校  
体育館 校庭

● 輪投げ 午前9時30分～12時  
受付 午前9時～

① シニアの部

50歳以上の3名で1チーム

② 一般の部

①以外の方(年齢性別不問)  
2～5人で1チーム

● ユニカール

午前9時30分～12時

受付 午前9時～

小学生以上3名で1チーム

● ビーチボールバレー

午後1時～4時

受付 午後0時30分～

男女6名1チーム(男性3名以内)

● ストラックアウト

午前9時30分～午後4時頃

小学生対象競技 自由参加

\*地区大会にて優秀な成績を修めた  
チームは12月9日(日)に開催され  
るコミュニティ・スポーツ中央大会に  
出場できます。

\*詳細・申込み方法は各町会の掲示  
板のポスターをご覧ください。

● 問合せ 榎町特別出張所

Tel(3202)2461

## 地域センターからの お知らせ

### 榎町地域センターまつり

お子様からご年配の方まで、楽しんで  
いただけるおまつりです。  
ご家族、ご友人とご一緒に、ぜひご来場  
ください。

● 日時：10月28日(日)

午前10時～午後4時

● 会場：榎町地域センター  
全館(地下1階～4階)

### 包丁の研ぎ方教室

● 日時：12月16日(日)

午前10時～12時

● 会場：榎町地域センター  
3階 工芸美術室

● 参加費：無料

● 募集：15名

● 講師：東京土建有志

● 持ち物：包丁(2本まで)  
タオル・エプロン

● 申込み：榎町地域センター  
2階 事務局

Tel(3202)8585

## 年忘れカラオケ大会

● 日時：12月23日(日)

午前10時～午後4時

● 会場：榎町地域センター  
4階 多目的ホール

● 参加費：300円

● 募集：72名

● 申込み：11月23日(金)

午前10時より受付  
3階 工芸美術室  
大会議室

\*申込み書は10月18日(木)より、榎  
町地域センター2階の事務局に置  
いてあります。

## 新春えのき寄席

● 日時：平成25年1月20日(日)

午後3時～5時

● 会場：榎町地域センター  
4階 多目的ホール

● 入場料：1000円

● 定員：120名

● 出演：三遊亭王楽  
三遊亭きつき

\*チケットは12月上旬より、  
榎町地域センター2階の  
事務局にて販売します。





満月の裏を見たくて旅に出る  
片道のチケツトを待つ長い列

伊藤三十六

テレビオンすごーいマイウ馬鹿わらい  
まだ八十だ人生賛歌高らかに

菅野あきら

健康な余生に感謝して生きる

合唱の唱歌心の窓を開け

小山一湖

イエス・ノー誰でも言える結果論  
マスコミは事が終れば何とでも

高橋凡苦郎

無我夢中育てた息子婿になる

何時までも話題にあがる旅の恥

田実 孜

広報誌「えのき文芸」39号から42号に掲載された文芸作品の中から秀句を集め展示しています。「季節の花」のオリジナル写真も展示しています。

● 場所 榎町地域センター2階ロビー  
● 期間 10月14日(日)〜27日(土)



見覚えのある家並や紅芙蓉

飯田もと子

儂なさを知ればさみしや蟬時雨

奥瀬イチ

太陽の光染みつく秋日傘

加藤理君

この花の名は何秋の風に揺れ

金澤 誠

放射能に負けず健気に稲実る

軽部とみ子

酒れダムは龍の骸か秋早ひでり

川口あきを

マリーナの少女の皓齒南風吹く

工藤 進

蛸に背中をおされし夕仕度

倉林 知子

微笑みし石仏に添ふ野菊かな

佐藤 琴美

天高し茅葺屋根は富士を背に

菅原美智子

オカリナの軽き音色や涼新た

中村 章子

泡一つ静かな午後の金魚玉

森 ひろし

## 秋の花



### ◀ キク

秋になると諸処で菊花展が開かれる。菊は仕立て方が腕の見せ所。大輪三本立て、中輪を一本の根から多数の花を一度に咲かせる多輪立ちは見事である。

### ▶ パンパスグラス

南米の草原に自生している。シロガネヨシの和名もある。高さ4mにもなる大きな植物なので、狭い所には似合わない。深大寺植物公園で撮影。



## 広報部からのお知らせ

「えのき」では毎号、榎町地域センターの登録団体の紹介をしています。

掲載いただける団体の募集をしています。

会員の募集や活動の様子、連絡先など、300字以内の原稿を添えて、お申し込みください。

「家族の肖像」「技の伝承」の企画記事に登場していただけた方の情報をお寄せください。

「えのき文芸」に掲載する句を募集しています。皆さんの身近にあることから「五・七・五」の句にしてみませんか。次号の俳句のお題は『冬』、川柳は『自由吟』です。

投稿はハガキかファックスに、俳句、川柳の別を明記の上、12月17日(月)までに榎町地域センター事務局までお送りください。

広報誌「えのき」に関するご意見やお問合せ、情報提供も榎町地域センター事務局までお寄せください。

〒162-0042

新宿区早稲田町85

Tel (3202) 8585

Fax (3202) 2478